

認定指定AB講座（ハイブリット） 開催報告

令和5年1月15日（日）、郡山市労働福祉会館大ホールにおいて認定指定 AB 講座が開催されました。今回の受講者は100名を超え、以前の賑わいを取り戻したような盛会となりました。もちろん、感染対策に充分配慮しての開催です。駅では旅行者が多くみられ、近くの幼稚園からは子どもたちの歌声が聞こえるようになり、日常が戻りつつある気配の中で、新年初めての会を開催することができました。

特別講演Ⅰ 心と技を磨く振り返りスキル『省察的实践』のすすめ

福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座 医師

豊田 喜弘 先生



「ポートフォリオ」をテーマとし、実践と活用についてお話いただきました。「ポートフォリオ」をどう活かすか、そのためにどのような思考プロセスを用いればよいか、たくさんのヒントを教えてくださいました。ポートフォリオのポイントとなる「省察」・「リフレクション」について、実践が終わった後の振り返りだけでなく、実践中も常に経験したことを反芻することが大切で、振り返りを「深める」ことがプロフェッショナルリズムを養うという言葉が印象的でした。終わりのメッセージにありましたように「自分が自分の師」となれるようにポートフォリオを活用して、日々の臨床を振り返り、省察の習慣を身につけることを知る機会になりました。

特別講演Ⅱ 味覚・嗅覚障害と鍼灸

特別講演Ⅲ 味覚・嗅覚障害の鍼灸治療

森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科 教授

医療技術学部 鍼灸学科 教授 仲西宏元 先生



新型コロナウイルス感染症の後遺症に多い、嗅覚・味覚障害について、上気道炎症性疾患として解剖学・生理学の基礎的なことから臨床総論・各論、そして東洋医学的な診断にわたり、幅広く講演いただき、系統的に関連を深く学ぶことができた機会となりました。後半の実技では、理論と仲西先生の長年のご経験から導かれた取穴部位や刺鍼術を存分に披露され、何を目的として針先の方向を決めるかなど、明日からの臨床に活かせるツボを学ぶことができました。質疑応答では「明日、嗅覚障害の患者様がいらっしやるのでアドバイスを求めたい。」と早速質問があり、多くの受講者が鍼灸・東洋医学が適応できる広さを再認識しました。

次回は岩手県盛岡市にて開催予定です。多くの方のご参加をお待ちしています。